

古典研究会 研究発表

連載

# 是為論これ ろん な～是を論と為す～⑩

## 李亦畬と「老三本」(その2)

李亦畬りえきよがまとめた「老三本」は、複数の文献を集めて編纂した要訣集です。右上の表は「郝和本」収蔵の文献で、右下は「啓軒本」の流れを汲む『廉讓堂太極拳譜』収蔵の文献一覧です。

「郝和本」の前半部分には、『太極拳譜』など十三勢に関わるものや、武禹襄の作と考えられている文献が組み込まれています。武禹襄ぶいうじょう作については、李亦畬が文献名や内容を補足し整理した可能性があります。李亦畬の序文『太極拳小序』を境に、後半には李亦畬自身の著作が並んでいます。

一方の『廉讓堂太極拳譜』は、李福蔭りふくいん(李啓軒の孫)によって再編集されたもので、収蔵されている文献の数や、文献名の一部などが「郝和本」とは異なっています。例えば「郝和本」にある『太極拳小序』は、『廉讓堂太極拳譜』では単独で収蔵されず、『五字訣』にその内容が組み込まれています。

『廉讓堂太極拳譜』の筆頭は『太極拳積名』(「郝和本」での文献名は『十三勢])で、そこには李亦畬の加筆で“太極拳”という拳術名が初めて明記されています(『太極』第241号19ページ:是為論②参照)。

ところで“廉讓堂”とは、李亦畬の書齋を備えた建物の名称だったようです。彼の息子たち(李宝廉と李宝讓)の名前から1文字ずつ取ってあり、のちに拳譜の名称とされたのです。

前号でも述べた通り、李福蔭が『廉讓堂太極拳譜』を配布した後、李福蔭や李槐蔭りかいいんなど李亦畬の子孫たちが『李氏太極拳譜』を発刊しています。印刷手法や発刊時期の違いもあり、名称は異なりますが、どちらも李亦畬の子孫たちが関わったもので、「啓軒本」の流れを汲んだ同じ内容であると考えられます。これら李氏の発刊物により、武禹襄と李亦畬の優れた研究内容が公になり、彼らの功績が広く知れ渡ることになりました。

### 「郝和本」収蔵の文献名

山右王宗岳太極拳論
十三勢架
身法、刀法、槍法
十三勢
十三勢行工歌訣
打手要言 (解日、解日、又日、又日、又日：禹襄武氏並識)
打手歌
打手撒放
太極拳小序
五字訣
撒放密訣
走架打手行工要言

### 『廉讓堂太極拳譜』収蔵の文献名

太極拳積名
十三勢架 (身法及び、十三刀、十三杆、四刀、四杆、四槍を含む)
山右王宗岳太極拳論
各勢白話歌
十三勢行功歌
打手歌
先王父廉泉府君行略
太極拳解 (禹襄打手要言第二段、不題禹襄作)
十三勢説略 (禹襄打手要言第五段、不題禹襄作)
四字密訣
五字訣
走架打手行工要言
十三式行功要解
撒放密訣
左虚右実之図
數字訣解
打手撒放

(参考文献) 唐豪・顧留馨著『太極拳研究』(人民体育出版社)

…『太極拳譜』の文献
…武禹襄作と考えられる文献
…李亦畬作
…李啓軒作
…武業緒(武禹襄の孫)作

(注) 現在、太極拳研究者などの間で作者とされている人物別に色分けしました。ただし各文献の中には作者不明という見方をする専門家もおり、はっきりと著者が確定していないものもあります。

※古典研究会では今後、「老三本」の『太極拳譜』以外から文献をいくつかご紹介していきたいと考えています。